

衆議院北朝鮮による拉致問題等に関する 特別委員会ニュース

H21.11.26 第173回国会第2号

11月26日(木) 第2回の委員会が開かれました。

1 北朝鮮による拉致問題等に関する件

- ・中井国務大臣(拉致問題担当大臣)及び武正外務副大臣に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

稲見 哲男君(民主)

- ・自公政権における拉致問題の解決についての対応をどのように総括されているのか。
- ・鳩山政権は、拉致問題の解決までの具体的な道筋をどのように考えているのか。
- ・鳩山総理が東アジア共同体構想を打ち出しているが、北朝鮮はどのように受け止めていると考えているのか。

中島 隆利君(社民)

- ・拉致問題解決に向けた鳩山政権の今後の方針はどのようになっているのか。
- ・鳩山総理の所信表明演説(平成21年10月26日)でも言及された、拉致・核・ミサイル問題の「包括的解決」とは何か。

古屋 圭司君(自民)

- ・自公政権時の対北朝鮮方針にあった「拉致被疑者の引渡し」が、鳩山内閣において触れられていないのは何故か。
- ・「拉致問題の解決」の意味する具体的内容は何か。
- ・拉致問題の解決に向けた進展がない限り北朝鮮へのエネルギー支援を行わないとする政府方針に変更はないか。

江藤 拓君(自民)

- ・自公政権においては「対話と圧力」を拉致問題解決における対応方針としていたが、鳩山政権の対応方針はどのようになるのか。
- ・拉致問題解決のためには、日米同盟の存在が重要となるが、政権交代によって日米同盟がきしむことにより対北朝鮮外交に悪い影響を及ぼすことになるのではないか。

竹内 譲君(公明)

- ・金正日国防委員長の健康状態及び権力継承は拉致問題にどのような影響を与えているのか。
- ・北朝鮮が、過去において外交上の譲歩を見せたときに共通した特徴はあるのか。
- ・拉致被害者の認定要件を見直す必要があるのではないのか。

笠井 亮君(共産)

- ・オバマ政権の対北朝鮮政策をどのように評価するのか。
- ・鳩山政権では日朝平壤宣言をどのように位置付けているのか。